

56年度の市の家計簿

182億円の使いみちは.....

大館市の財政がどのような運営され、現在どのような事情になっているかを知っていただくため、毎年一回、財政事情の公表を行っています。今回は五十六年度の決算のあらましをお伝えします。市の財政におお一層のご理解とご協力をお願いします。

56年度決算のあらまし

◆一般会計は六億円の黒字に
五十六年度の財政は、公共事業の抑制や起債充当の低下など一段と厳しい情勢下にあります。この厳しい財政事情の中で、市民文化会館や働く婦人の家、釈迦内体育館、身障者福祉センター、長木小学校等の建設、ブックモービルの巡回、疾病予防対策検診、中小企業金融対策、生活環境の整備、農林業の振興などの事業を実施し、魅力あるまちづくりに努めてきました。

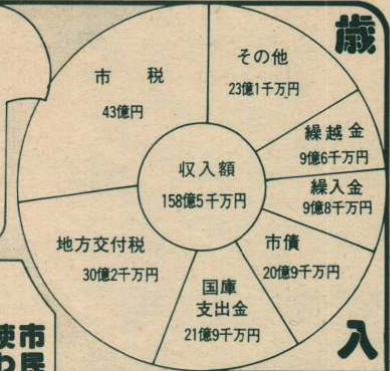
この結果、一般会計の決算額は歳入が百五十八億五千四百四十三万円、歳出が百五十二億四千八百四十五万円、差引となり、二百九十八万円の黒字となりました。五十七年度に繰り越しました。

◆特別会計も黒字に
国民健康保険、都市計画事業、食肉センター、卸売市場などの特別会計も一億八百二十万円を五十七年度に繰り越しました。

市税一人当たりの負担状況

市民税 27,720円  (20億円)	固定資産税 20,068円  (14億5千万円)	たばこ消費税 3,837円  (2億7千万円)	電気税 2,698円  (1億9千万円)
---	--	---	---

このほか都市計画税、鉱山税、入湯税、軽自動車税など



諸支出金 5,867円 (4億2千万円)



水道市場への助成金、市有林造成など

災害復旧費 3,062円 (2億2千万円)




河川、道路、農業施設の災害復旧など

議会費・労働費 4,381円 (3億1千万円)



議員の報酬、失業対策など

商工費 9,628円 (6億9千万円)



商工振興、観光、婦人の家建設など

農林水産業費 8,499円 (6億1千万円)



農林業振興、市民の森など

消防費 6,672円 (4億8千万円)



消防費、水防費など

総務費 20,515円 (14億8千万円)



公害対策、統計調査、庁舎管理など

衛生費 14,969円 (10億8千万円)



各種検診、ゴミ処理、墓地など

公債費 10,898円 (7億9千万円)



市が借りたお金の返済など

教育費 64,287円 (46億6千万円)



文化会館建設、学校管理、公民館活動

民生費 35,491円 (25億7千万円)



老人福祉、身障者センター建設など

土木費 26,054円 (18億8千万円)



道路の新設改良、補修など

大館市の借金

市が道路改良や学校の建設などの事業を行うためには、市費だけでは足りないため大蔵省、郵政省などから長期借入れして事業を行っています。57年3月31日現在の借入金は92億6千万円となっています。

災害復旧 2億7千万円	衛生 2億7千万円	農林水産業 2億9千万円	その他 公営住宅、満期など 2億7千万円	土木事業 38億円	義務教育事業 37億3千万円
----------------	--------------	-----------------	----------------------------	--------------	-------------------


市民一人当たりに使われたお金——二万三三九九円 (支出額一五二億四千万円)

特別会計の収支


国民健康保険 歳入25億4千万円 歳出24億7千万円	都市計画事業 歳入4億3千万円 歳出4億1千万円	地方卸売市場 歳入7千万円 歳出7千万円
----------------------------------	--------------------------------	----------------------------

※このほか奨学資金、食肉センター、財産区などの特別会計があります。

私たちの財産がこれだけふえました




ブックモービル



市民文化会館



釈迦内体育館



働く婦人の家

※このほか身障者福祉センター、桂城児童センター、有浦・片山三丁目児童公園、長木小体育館などがあります。

飲酒運転防止

ほんの一杯だけが命とり

年末年始の交通事故防止運動

これら酒を飲む機会が多くなりますが、同時に飲酒運転による交通事故も激増します。運転者はもちろん家族や地域、飲食店ぐるみで次の三つの運動の実践をし、飲酒運転を防止しましょう。

- ◆飲んだら乗らない
- ◆乗るなら飲まない
- ◆乗るなら飲ませない

沿地区文化

市長の対話ノート

No.60

一年の計 喜怒哀楽、さまざまな思いを残して今年も余すはひと月となりました。良い年、悪い年の評価はそれぞれされることですが、単に現象面だけで評価することは正しくないのではないのでしょうか。去年があったからの今年であり、今年があればこそ来年があるのです。要は今年の経験と学習を来年にどう反映させるかであり、その意味で、今年をどのように評価し、総括をするかということにあります。十二月はその月です。

数字を基に今年目標を大きく突破したからとか、逆に目標を下回ったからと言ってその理由をあけて総括する、これも一つの方法かも知れませんが、しかし、それ以前に大切なことがあります。それは設定した目標そのものが正しかったのかどうかということでしょう。私たちがとく、現実、現状がそうなので何となくこうあって欲しいと願う、その願望が目標となる要素、つまり主観的な目標にならず、可能な限り客観的な目標にする努力を怠ってはならないと思うのです。

願望の目標であっても、願望的でない行動計画に伴って、いざその目標は生きたものでしょう。正しく目標値に近い達成値であればあるほど、目標は正しかったことであるし、そうあるべく努力を払わなければなりません。

十二月という月は、そんな努力をする月でもあるし、今年と来年の接点という意味でも大切な月です。

留山健治郎

12月1日号広報休刊のお知らせ
広報十二月十六日号は、新年号増ページ編集のため